

## 受け継ごう！伝えよう！横浜の宝 ひき船

本単元で育成する資質・能力

チャレンジする力 表現する力 協力・貢献する力

- 1 日時 令和4年 10月31日(月) 第6校時
- 2 学年 第4学年1組 男子15名 女子10名 計25名
- 3 単元について

## (1) 児童観

本学級の児童は、3年生の社会科や総合的な学習の時間に、校区を歩いて、海や山に囲まれた自然豊かな地域の特色について、グループごとに調べ、まとめる学習をしている。

4年生の1学期には、広島県内の他地域の特色を調べる学習を行い、坂町と比較してみることで、坂町(特に横浜地区)の特色を再発見した。

その中で、坂町には有名な行事や特産品がないのではないかと考える児童もいた。特に、コロナ禍において、地域の行事や祭りが中止になったり、人との触れ合いが減ったりする中、「地域」というコミュニティから遠ざかったり、行事を知らなかったりする児童も多くいる。今回扱う「ひき船」については、八幡神社の秋祭りに行き、見たことがある児童はいるが、意味や由来等、詳しいことを知り、身近に感じている児童は少ない。

総合的な学習の時間の授業においては、意欲的に学習に取り組む児童が多い。情報を収集したり、調べたことをICTを活用しながら発表したりすることに意欲をもち、グループで協働的に学習することができている。しかし、調べた情報を、目的や伝える相手に応じて整理したり、まとめたことは十分にできていない児童が多い。

## (2) 単元観

本単元は、地域に古くから伝わるひき船について、課題意識をもって調べたり、ひき船に関わる人たちから話を聞いたりすることを通して、地域の伝統やそれらを大切にしてきた人々の思いや願いに気付き、地域への愛着を深め、郷土を大切にしようとする思いをもったり、それらを継承していくために自分たちにできることを考えたりすることを期待して設定した単元である。

ひき船は地域に古くから伝承されている行事でもあり、横浜地区の人々の思いをつなぐ宝でもある。

児童がひき船のことを知り、愛着を深めていくことは、今後坂町に住み、文化継承の一員となっていく児童にとって意義深いことであると考えます。

また、友だちや地域の人と関わり合いながら、課題を見付け、探究的に学んでいく過程では、常に目的意識、相手意識をもつことができ、自分の意図に応じて適切に情報を収集したり、整理・分析する中で考え、考えたことを表現したりする力を育てていくのにふさわしい題材であると言える。

## (3) 指導観

指導に当たっては、まず、ひき船を見たことのない児童のために、写真や映像を見せたり、昨年度の4年生が作成したひき船についてのリーフレットを紹介したりしていく。このことにより、地域の伝統行事である「ひき船」と出合わせる。そして、興味・関心が高まったところで、地域の人に話を聞いたり、調べ学習をしたりし、ひき船について詳しくなる。

次に、災害とコロナ禍により3年間秋祭りが行われていないことから、ひき船を知らない人が増えてきているのではないかとことや、ずっとひき船に関わってきた人が今どんな思いでいるのかということ想像させていき、新たな学習課題を設定する。ひき船のことを受け継いでいたり、ひき船をかつげなくて寂しがっている人を元気にしたりしたいという課題につなげ、探究的に解決させたい。

実行の段階では、自分たちにできることをしていくために、学習発表会での表現や、町の人にひき船のことを知らせるパンフレットの作成などの活動が展開されることを想定している。

さらに、児童がより主体的に探究できるようにするために、次の5点を意識して指導を行う。

- ① 課題設定の際に体験活動を重視し、自分事として課題を捉えられるようにする。
- ② ひき船に関わりのある、地域の人とできるだけ多く関わる。
- ③ 多面的、多角的に情報を収集させる。
- ④ 集めた情報を、思考ツール等を活用して目的や意図に応じて整理し、表現させる。
- ⑤ 協働して課題を解決する良さを感じさせる。

これらの活動を通して、児童が地域の一員であることを自覚し、自分たちが見付けた地域の宝を大切にしていこうという思いにつなげたい。

#### 4 単元目標

地域に古くから伝わるひき船について、課題意識をもって調べたり、ひき船に関わる人たちから話を聞いたりすることを通して、地域の伝統やそれらを大切にしてきた人々の思いや願いに気づき、地域への愛着を深め、郷土を大切にしようとする思いをもったり、それらを継承していくために自分たちができることを考えたりすることができる。

#### 5 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①ひき船は、地域に伝わる伝統行事であることを理解している。 ②目的に応じた調査活動を適切に行っている。 ③地域の伝統文化に関する理解は、探究的な学習の成果であることに気付いている。	①地域の伝統行事への関わりを通して感じたことをもとに課題をつくり、解決の見通しをもっている。 ②必要な情報を手段を選択して多様に収集している。 ③課題解決に向けて、情報を整理・分析して考えている。 ④自分の考えや思いを、目的や相手に応じて分かりやすく表現している。	①課題解決に向け、自分の良さに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ②自分と違う意見や考えの良さを生かしながら協働して学び合おうとしている。 ③地域との関わりの中で、自分にできることを見付けようとしている。 ④地域に古くから伝わるひき船について学習することを通して、坂町の一員としての愛着をもとうとしている。

#### 6 他教科等との関連

国語科	社会科	特別の教科道徳
「聞き取りメモのくふう」 「メモの取り方をくふうして聞こう」 「じょうほう 要約するとき」 「新聞を作ろう」 「世界にほこる和紙」 「伝統工芸の良さを伝えよう」 「クラスみんなで決めるには」	「きょう土の伝統文化と先人たち」 「残したいもの伝えたいもの」	ふろしき ふるさとを守った大イチョウ

#### 7 坂中学校区として系統的に育成を目指す資質・能力の具体の姿

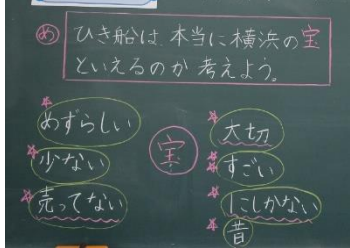
<b>チャレンジする力</b> 【挑戦】 【粘り強さ】 【解決力】	・地域の伝統行事への関わりを通して感じたことをもとに課題をつくり、課題や自分で決めた目標に対して、粘り強くやり通そうとしている。
◎ <b>表現する力</b> 【自分】 【目的・相手・場面】 【工夫】	・横浜の人々のひき船に対する思いや願いを受け継いでいくために、自分が考えたことを、目的や相手に応じて、根拠を明確にして伝えることができる。
<b>協力・貢献する力</b> 【役割】 【行動力】 【感謝】	・地域に古くから伝わるひき船について学習することを通して、地域の一員としての自分の役割に気づき、自分にできることを見付け行動している。 ・学習を通して関わった人に、進んで感謝の気持ちを伝えている。

8 指導と評価の計画 (全 36 時間 本時 21/36 時間)

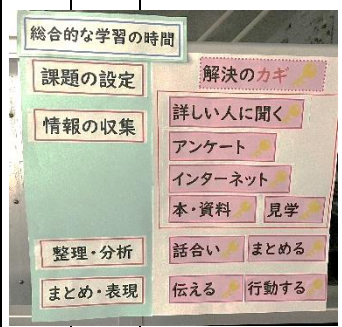
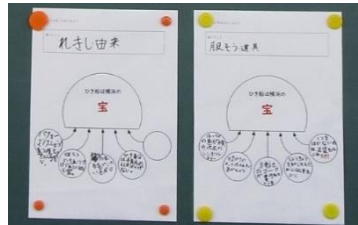
小単元名 (時間)	探究の過程	主な学習内容	知	思	態	評価規準及び 評価方法
ひき船と出合おう(12)	課題発見 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1学期の学習のつながりから、横浜の良さについて話し合い、まだ知らないことを見つける。</li> <li>○ひき船について、映像教材や写真を見ることを通して興味をもつ。</li> </ul>				
	課題の設定 (2)	<p>ひき船は、本当に横浜の宝なのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○課題を達成するために必要な活動を考え、計画を立てる。</li> <li>○興味をもったことについてグループを作り、活動の計画を立てる。</li> <li>・歴史、由来 ・飾り・かつぎ方</li> <li>・服装 ・秋祭り・関わりのある人 等</li> </ul>		①		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・行動観察</li> </ul>
	情報収集 整理分析 (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報収集の仕方を学ぶ。</li> <li>○ひき船に携わる地域の方に話を聞く。(親、中学生、戸主会の人)</li> <li>○集めた情報を整理したり、交流したりしながら、「ひき船は横浜の宝」と言えるのか、根拠を明確にしながら分析する。</li> </ul>	②	① ③	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・行動観察</li> <li>・発話分析</li> </ul>
まとめ・表現 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ひき船について調べたことや分かったこと、考えたことを「宝」という視点でレポートにまとめる。</li> </ul>	①	④		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>	

ひき船は、本当に横浜の宝なのだろうか。

- 課題を達成するために必要な活動を考え、計画を立てる。
- 興味をもったことについてグループを作り、活動の計画を立てる。
- ・歴史、由来 ・飾り・かつぎ方
- ・服装 ・秋祭り・関わりのある人 等



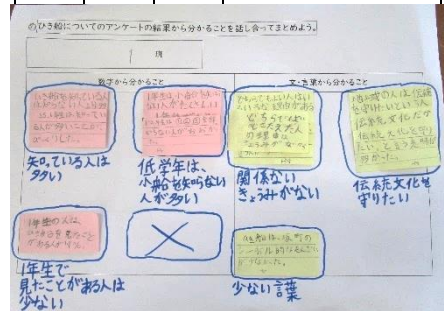
**【ICT活用】**  
Jamboardを効果的に使い、課題設定を行う。



**【ICT活用】**  
Wordを使い、写真とキーワードを使い、調べたことを端的にまとめさせる。



	振り返り (1)	○活動を振り返り、次の活動への課題をもつ。 ・ひき船は長い間、横浜で続いてきた伝統であり、自慢できる宝である。			②	・振り返りシート
ひき船を受け継ごう (12)	課題の設定 (2)	○3年連続で秋祭りが中止になり、ひき船ができていないことを知る。 全国的にもコロナ禍でお祭りが中止になり、伝統行事や文化を継承していくことが課題になっていることを知る。 (映像、新聞記事) ○アンケートを取り、ひき船の認知度について調査する。(横浜小学校全児童、親等) ○ひき船を知らない人が増えているかもしれないことから、ひき船の伝統はどのように受け継がれていくのかということについて考え、新しい課題を設定する。	②	①		・ワークシート ・行動観察
		横浜の宝 ひき船を受け継いでいくために、自分たちにできることを考えよう。	【ICT活用】 Google foam を使い、他学年にアンケートを実施			
		○課題を達成するために必要な活動を考え、計画を立てる。				
	情報の収集 (5)	○仮) 戸主会、その他、ひき船に関わる人の話(思いや願い)を聞く。 ・これからも横浜の伝統を受け継いで欲しい。 ○アンケートの集計をする。 ・ひき船を知っている人が少ない。 ・ひき船は、横浜の人々の絆。代々受け継がれてきている伝統であり宝。3年間祭りが中止となり、ひき船を知らない人や、ひき船から気持ちが離れしまう人がいることが心配。ひき船がかつげなくて残念。	②	②	①	・ワークシート ・行動観察
整理分析 (2)	○集めた情報を整理したり、交流したりし、横浜の人々のひき船に対する思いや願い、ひき船の認知度の現状についてまとめる。 ○ひき船を受け継いでいくために、自分たちにできることを考える。 <b>【本時】</b> 仮)・低学年にひき船を知らせる会を開く。 ・パンフレットを作って配る。(公共施設に置かせてもらう)			③	③	・ワークシート ・行動観察 ・発話分析
まとめ・表現 (2)	○活動内容を決定し、今後の計画を立てる。			④	①	



	振り返り (1)	○学習や活動について、自分自身の成長を意識した振り返りをする。  ・ひき船は、横浜の人々の思いや願いによって受け継がれてきているものであり、これから自分たちでも受け継いでいくための一員になりたい。まだ知らない人に伝えたり、ひき船を盛り上げたりしたい。	③			・振り返りシート
ひき船を伝えよう・盛り上げよう (12)	課題の設定 (1)	○ひき船のことを伝えたり、盛り上げたりすることの目的を再確認する。  仮) ひき船で横浜を元気にしよう。  仮) ・お知らせ会チーム ・パンフレットチーム		①		・ワークシート ・行動観察
	整理分析  まとめ・表現 (10)	仮) ○お知らせ会チーム 伝えたい言葉や表現方法について考え、準備する。  ○パンフレットチーム 伝えたい言葉やレイアウト、配布方法について考え作成する。		③ ④	① ②	・ワークシート ・行動観察 ・発話記録
	振り返り (1)	○これまでの体験や経験から学んだことを振り返り、自己の成長について考える。 ・これからも、横浜の一員として地域の宝を大切にしていきたい。	③		④	・振り返りシート

**【児童が考えた取り組み】**

- ・「ひき船をわすれないで」ポスターの作成(地域)
- ・ひき船の情報を書いたしおりの作成(地域)
- ・ひき船ブックの作成(下学年)
- ・「ひき船物語」の作成(下学年)

## 9 ルーブリック (評価基準)

	評価基準
III	横浜の宝であるひき船を受け継いでいくために自分たちにできることを、これまでの調査活動で得た情報と関連付けながら、根拠を明確にして考えている。
II	横浜の宝であるひき船を受け継いでいくために自分たちにできることを、根拠を明確にして考えている。
I	横浜の宝であるひき船を受け継いでいくために自分たちにできることを考えている。

## 10 本時の学習

### (1) 本時の目標

横浜の人々のひき船に対する思いを受け継いでいくために、自分たちにできることを話し合っ

て考える。

(2) 本時の展開

学びのサイクル	学習活動	指導上の留意事項 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 資質・能力 (★) (評価方法)
<p>よしやってみよう</p>	<p>1 前時の学習の振り返りを行う。</p> <p>2 本時のめあてを確認する</p>	<p>○前時の学習について振り返ることで本時のめあて設定への見通しがもてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひき船を知っている子供が少なくなっている。</li> <li>・地域の人は、ひき船を地域のつながりとして大切にしている。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【ICT 活用】</b> 前時の授業の足跡を電子黒板に映し出して振り返りの助けとする。</p> </div>	
<p>こう考えてみよう</p> <p>はつきり表そう</p>	<p>3 活動の見通しをもつ。</p> <p>4 個人で考えた後、グループで共有する。</p> <p>5 全体で交流する。</p>	<p>○これまでの調査活動について振り返り、話し合いの目的を確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大切にしていけるため。</li> <li>・知らない人に伝えるため。</li> <li>・忘れないようにしてもらうため。</li> <li>・盛り上げていくため。</li> </ul> <p>○ワークシートを使って、意見の根拠を明確にしながらかえさせる。</p> <p>○分類チャートを使ってグループの意見を整理させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○○を作ると、低学年にひき船のすごいところを伝えていくことができる。</li> <li>・○○をすると、地域の人にひき船のことを思い出してもらえる。</li> </ul> <p>◆ 考えが浮かばず話し合いに参加できない児童に対し、友だちの意見の中からのいいなどと思うものについて同意を示すことを伝える。</p> <p>○グループで出た意見を交流する。</p> <p>○出た意見を全体で分類・整理していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分類の視点  <div style="display: flex; gap: 10px;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">誰に</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">何をするか</span> </div> </li> </ul>	<p>★横浜の宝であるひき船を受け継いでいくために自分たちにできることを、根拠を明確にして考えている。 (ワークシート・発話分析)</p>

横浜の宝 ひき船を受け継いでいくために、自分たちにできることを話し合っ  
て考えよう。

	<p>○「受け継ぐ」という目的が達成できる取組になっているか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇の方法は、横浜の宝を知らない人に伝えていくことができるからいいと思う。</li> <li>・地域の人にはもっと〇〇を伝えたほうが、次のお祭りを楽しみにしてもらえと思う。</li> </ul>	
6 本時のまとめを行う。	<p>ひき船を受け継いでいくために、知らない人に伝えたり、地域の人にも忘れないように伝えたりすることなど、自分たちにもできることがある。</p>	
<p>ま と め よ う ・ ふ り か え ろ う</p> <p>7 振り返りをする。</p>	<p>【振り返り例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えに理由を付けて発表できた。</li> <li>・グループで話し合っ、横浜の宝を受け継ぐために、〇〇をすることを考えることができて良かった。</li> <li>・これからもっと詳しく考えて、ひき船のことをたくさんの人に知ってもらいたい。</li> </ul>	
8 次時の学習内容をについて見直しをもつ。	<p>○次時は、今日話し合ったことを基に、具体的に活動計画を立てていくことを伝える。</p>	

11 準備物

電子黒板 ワークシート、それぞれのグループの資料

12 板書計画

10/31 受け継ごう！伝えよう！横浜の宝 ひき船

④ 横浜の宝 ひき船を受け継いでいくために、自分たちにできることを話し合っって考えよう。

ぼく、私が

守っていく

盛り上げていく

受けつぐ

知らない人に伝える

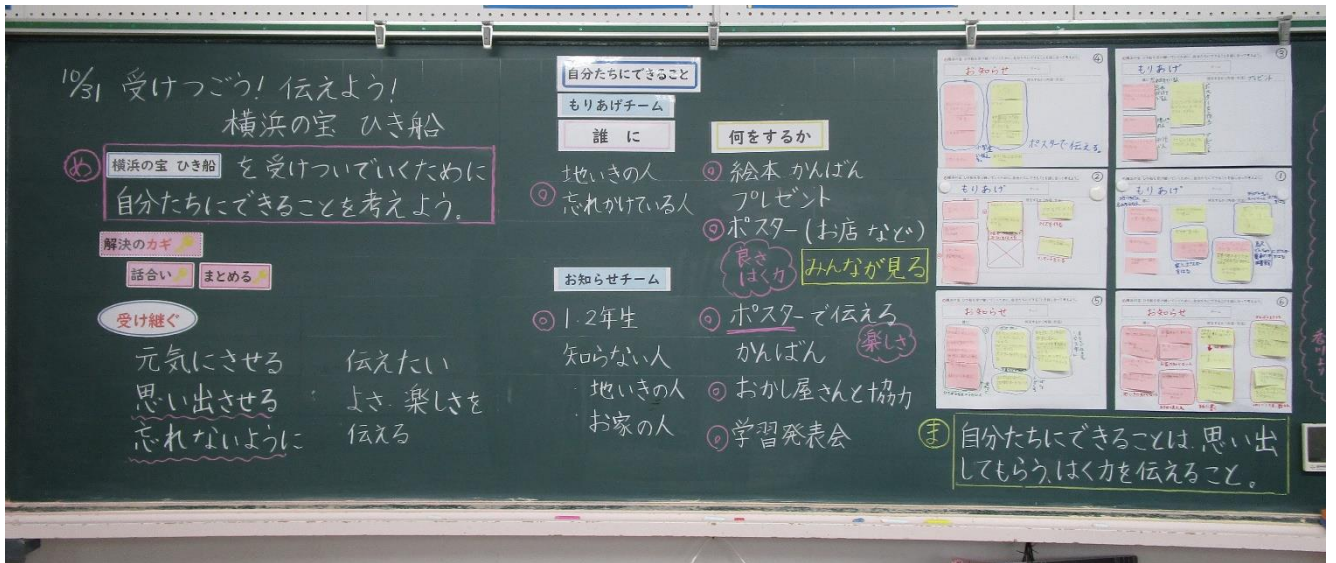
忘れないでいてもらう

自分たちにできること

だれに	何をするか

⑤ 横浜の宝 ひき船を受け継いでいくために自分たちにできることは、知らない人に伝えたり、地域の人とつながったりすることなどがある。

# 本時の板書



# 教室内の学習の足跡



児童の「問い」と探究の足跡を、写真と吹き出しで掲示することにより、児童の課題意識が継続した。



